

中学道徳通信

特集

ウェルビーイングと学習活動

巻頭特別寄稿

物質的豊かさを越えた「真の幸せ」とは

「ウェルビーイング」を学び「人間の幸福とは何か」を考えてみよう

鈴木 寛 東京大学公共政策大学院教授 慶應大学SFC特任教授 日本サッカー協会参与



ウェルビーイングの要因を可視化し共有する

ウェルビーイングカードと学習活動の実践例

渡邊淳司 日本電信電話株式会社(NTT)上席特別研究員

ウェルビーイング実践授業「町内会デビュー」

「幸福」を「幸福感」に置き換えて

授業をしてみよう

菅 明男 道徳教育研究家

ICT教育の

旗手たちの提言 第2回

産官官民との連携で

ICTの活用推進

戸ヶ崎 勤 埼玉県市田市教育長



物質的豊かさを越えた「真の幸せ」とは—— 「ウェルビーイング」を学び 「人間の幸福とは何か」を考えてみよう

「経済至上主義や「利己主義」が過度に蔓延する現代社会にあって、経済と並んで、あるいはそれ以上に重要なものがあることに生徒が気づき、考えるきっかけを与えることは、道徳教育の重要な要素の一つです。そうした観点から昨今、主観的な幸福感を含む「ウェルビーイング」が重要な概念となっています。OECD教育2030プロジェクトにおいて「学びの羅針盤(Learning Compass)」を発表し、教育の目標は、個人と社会のウェルビーイングの増進だと提起しています。近年、国内外で社会的関心が高まる「Well-being = 幸福な状態」の動向を概説します。

文／鈴木 寛

東京大学公共政策大学院教授 慶應義塾大学SFC特任教授 日本サッカー教会参与

本当に

「失われた20年」なのか？

毎日のように新聞紙上やテレビで報じられているキーワードの一つに「失われた20年、30年」という言葉がよく使われています。我が国は、1992（93年ごろに、一人当たりGDP（国内総生産）が世界一になったのをピー

クとして、その後、経済的な成長は鈍化し、2010年には、GDP世界2位の座を中国に譲るなど、経済的な存在感が低下しています。確かに、経済成長の鈍化は事実ですが、そのことにより日本人の自己肯定感や自尊心までもが過度に低下し、特に、青少年にも、大きな影響を与えていることは問題だと私は危惧しています。

実は、物差しを変えれば、日本への評価は一変します。例えば、国連大学やUNDP（国連開発計画）が提唱しているIWI（Inclusive Wealth Index）という指標があります。生産資本に加えて、自然資本、人的資本などを包括した指標で、IWIで見れば、日本は引き続き米

る 経済成長率を超える幸福度指標の提案」というレポートがまとめられました。これに続いて、GDPでは測れない国民の幸福を数値化するために、いくつかの国々でも幸福度を測る試みが始まりました。英国でも議会でGDW（Gross Domestic Well-being）を取り上げるようになりました。

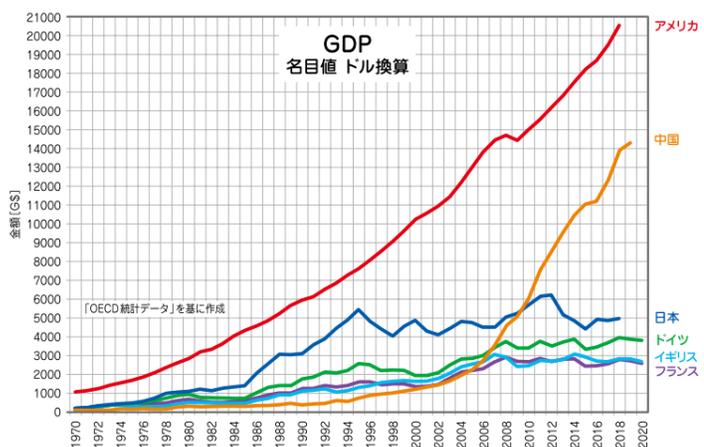
2011年にOECD（経済協力開発機構）は「より良い暮らし指標(Better Life Index: BLI)」と「よりウェルビーイングに関する国際的な指標をつくり、GDPという経済的な側面だけではとらえられない豊かさや生活の質、満足度を描き出す指標として経済社会政策に取り入れる方向にシフトしていきました。国連も2012年より主観的ウェルビーイングの国際ランキングを公表しています。

ウェルビーイングを めぐる日本の政策動向

こうした世界の動きに連動して、我が国でも、ウェルビーイングが重要課題になっています。

●「経済財政運営と改革の基本方針2017」（同年6月閣議決定）において、「従来の経済統計を補充し、人々の幸福感・効用など、社会のゆたかさや生活の質(QOL)を表す指標群(タッシュボード)の作成に向け検討を行い、政策立案への活用を目指す」

●「経済財政運営と改革の基本方針2018」（同年6月閣議決定）では、



国について世界2番に位置しています。また、英国BBC放送が行っている世界世論調査では主要国に対する各国国民の評価（世界にプラスの影響を与えているか、それともマイナスの影響を与えているか）を調べていますが、日本への評価は、カナダ、ドイツ、英国に次ぐ第4位です。

鈴木 寛 すずきかん

東京大学教授、慶應義塾大学教授、社会創発塾塾長、Teach for All Global Board Member、元・文部科学副大臣、前・文部科学大臣補佐官、日本サッカー協会参与など。1964年生まれ。1986年 東京大学法学部卒業後、通商産業省に入省。資源エネルギー庁、国土庁、産業政策局、生活産業局、シドニー大学、山口県庁、機械情報産業局などで勤務。山口県庁出向中に吉田松陰の松下村塾に何度も通い、若者の無限の可能性を実感し、人材育成の大切さに目覚める。郷里神戸の阪神淡路大震災被災（実家は半壊）から半年後の1995年夏から、通産省勤務の傍ら、大学生などを集めた私塾「すずかんゼミ」を主宰し、現在に至る。慶應義塾大学SFC 助教授を経て2001年参議院議員初当選（東京都）。12年間の国会議員在任中、文部科学副大臣を2期務めるなど、教育、医療、スポーツ・文化、科学技術イノベーション、IT政策を中心に活動。



ウェルビーイングを めぐる世界の政策動向

ウェルビーイングに最初に着目したのは、GNH (Gross National Happiness) を提唱したブータンですが、これを政策にまで生かす試みを開始したのは、フランスのサルコジ大統領です。同大統領は、ノーベル経済学賞を受賞したステイグリッツ、アマルティア・セン、ジャンポール・フィトリらに呼び掛け「経済成果と社会進歩の計測に関する委員会」を立ち上げ「暮らしの質を測

「国民の満足度、生活の質が向上されるよう、満足度・生活の質を示す指標群を構築するとともに、各分野のKPI (Key Performance Indicator) 重要業績評価指標数)に関連する指標を盛り込む」

●「経済財政運営と改革の基本方針2019」（同年6月閣議決定）においては、「我が国の経済社会の構造を人々の満足度(well-being)の観点から「見える化」する「満足度・生活の質を表す指標群(タッシュボード)」の構築を進め、関連する指標を各分野のKPIに盛り込む」

幸せの共通点と相違点を認識し対話することは、考える道徳、議論する道徳に大いに資する

●「経済財政運営と改革の基本方針2020」(同年7月閣議決定)において「EBPM (Evidence Based Policy Making 証拠に基づく政策立案)の基盤であるデータの活用を加速するための戦略体制を整備する。こうした取組の環境として、人々の満足度(well-being)を見える化し、分野ごとのKPIに反映する」との文言が盛り込まれました。2021年は、ウェルビーイング元年ともいべき年となりました。

これらの取組を通じて個人と社会全体のWell-beingの実現を目指す」との文言が盛り込まれました。特に成長戦略実行計画においては、ウェルビーイングに関しては、「国民がWell-beingを実感できる社会の実現成長戦略による成長と分配の好循環の拡大などを通じて、格差是正を図りつつ、一人ひとりの国民が結果的にWell-beingを実感できる社会の実現を目指す」と記述されました。

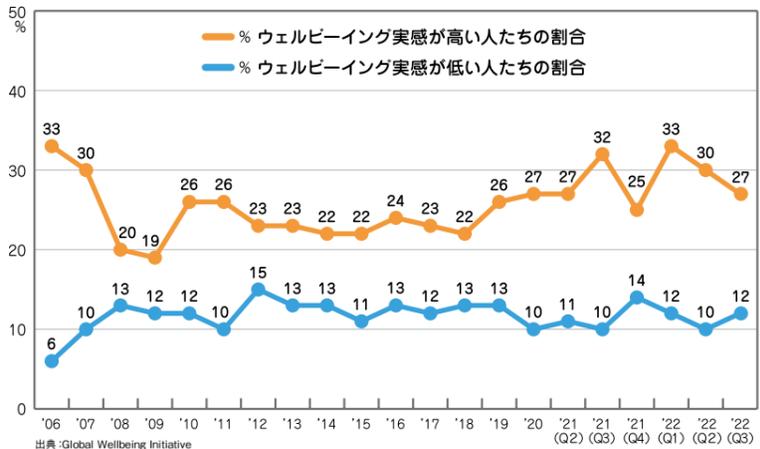
を追加し、公表されました。また、2022年12月から、ウェルビーイング学会が主導して、GDPの四半期報が発表される日と同日に、GDW (Gross Domestic Well-being)の発表が始まりました。今後、3か月ごとに継続してGDWが発表されることになっていきます。2023年は、4月に子ども家庭庁が発足することもあり、子どものウェルビーイング政策について進展が見込まれています。5月に開催予定のG7教育大臣会合は、子どものウェルビーイングを取り上げることになっており、2月にはその準備にもつながる国際学会が開催されました。

道徳教育へのウェルビーイングの意義

「人間の幸福とは何か」というテーマは、道徳はもとより哲学や倫理学や宗教学の永遠のテーマですが、ウェルビーイングが各国や国際機関の重要課題になりつつある今、児童・生徒向けのウェルビーイングカードなどの教材も出ていますが、教育現場でも、物質的豊かさを超えた真の幸せのあり方について、改めて、生徒が考え、熟議する機会を積極的に設けてもいいのではないのでしょうか？

それぞれの生徒が考える幸せの共通点と相違点を相互に認識し、対話を重ねることは、まさに、考える道徳、議論する道徳に大いに資すると考えます。

日本国内のGDW (ウェルビーイング/生活の豊かさ実感)の推移
2006年~現在 (2022年7月~9月)



Global Wellbeing Initiative によれば、2022年1-3月期で、今の生活にある程度満足し、かつ未来に対する見通しも明るい認識をもっている人たちの割合は33%、実感が低い人たちの割合は12%となった。現在、GBWは3か月ごとに継続して発表されている。

「日本ウェルビーイング計画推進特別委員会」が設置され、学界及び産業界から外部有識者を加え、産学政官による議論を開始され、2021年5月ウェルビーイング計画推進特別委員会が提言を出しました。これを受け、「経済財政運営と改革の基本方針2021年(同年6月閣議決定)では、「政府の各種の基本計画等について、Well-beingに関するKPIを設定する」「デジタル時代にふさわしい質の高い教育を実現するため、(中略)人と人との触れ合いも大事にしながら、

各省庁での取り組みは一挙に加速し、各省庁が所管する32の計画にウェルビーイングの文言が盛り込まれました。政府の最重要課題であるデジタル田園都市構想は、その最上位にウェルビーイングを置くこととしており、地域のウェルビーイングをKPIとして政策を講じていくこととなっています。また、現在、策定中の新教育振興基本計画においても、教育目標にウェルビーイングを置くこととしています。加えて、2021年9月に内閣府は「満足度・生活の質を表す指標群(ダッシュボード)」を公表しました。具体的には11分野に分けて調査している満足度・生活の質に、生活全体の満足度として、主観的ウェルビーイング

特集

ウェルビーイングと学習活動

巻頭特別寄稿

物質的豊かさを越えた

「真の幸せ」とは

「ウェルビーイング」を学び

「人間の幸福とは何か」を考えてみよう②

鈴木 寛 東京大学公共政策大学院教授 慶應大学SFC特任教授 日本サッカー協会参与



ウェルビーイング実践授業「町内会デビュー」
「幸福」を「幸福感」に置き換えて考える⑩
菅 明男 道徳教育研究者



ウェルビーイングの要因を可視化し共有する
ウェルビーイングカードと
学習活動の実践例⑥
渡邊 淳司 日本電信電話株式会社(NTT) 席特別研究員



ICT教育の旗手たちの提言 第2回
産官学との連携でICTの活用推進⑫
戸ヶ崎 勤 埼玉県戸田市教育長



学級経営は信頼関係構築がスタート・ダッシュのロジック⑭
埼玉県富士見市西中学校校長 堀川博基
日本教科書からのお知らせ⑯

ウェルビーイングの要因を可視化し共有する 学習活動での実践例

文／渡邊淳司 日本電信電話株式会社（NTT） 首席特別研究員

近年、世界的に注目されている「ウェルビーイング」(よく生きるあり方)。ウェルビーイングは人それぞれに異なるため、自分自身はもちろんのこと、他者のウェルビーイングを尊重することが大切になります。ここでは、自身や周囲の人々のウェルビーイングの要因に意識を向け、それを言語化した対話を促すツール「わたしたちのウェルビーイングカード」を紹介したいと思います。

ウェルビーイングの自己理解力を育む

「ウェルビーイング」(英語では「Wellbeing」もしくは「Well-being」)とは「well = よく」「being = 状態、在る」が組み合わされた言葉で、人の「よい状態」「よく生きるあり方」を意味する概念です。

近年の心理学でウェルビーイングは、自身の状態やあり方について包括的に振り返った認知的な評価(例えば、「自分の人生は、現在どの程度よい状態ですか?」)と、ポジティブもしくはネガティブな感情体験に関する質問(例えば、「一週間のうちに、

楽しいと感じることはどの程度ありましたか?」)を組み合わせることで測定されています。

しかし一方で、ウェルビーイングは、人それぞれが何を「よい」と捉えるのか、それぞれの価値観と深く関連しているため、何らかの基準で一義的に定義することが困難な概念でもあります。

そして、人々のウェルビーイングを一次的に点数化する試みは、集団の状況を把握したり、政策を策定するためには有効ですが、必ずしも、それが個人々のウェルビーイング向上に直接的に結びつくわけではあり

ません。

楽しいと感じることはどの程度ありましたか?」)を組み合わせることで測定されています。

しかし一方で、ウェルビーイングは、人それぞれが何を「よい」と捉えるのか、それぞれの価値観と深く関連しているため、何らかの基準で一義的に定義することが困難な概念でもあります。



カードにはウェルビーイングの要因が書かれており、それらは「I(わたし)」「WE(わたしたち)」「SOCIETY(みんな)」「UNIVERSE(あらゆるもの)」の4つのカテゴリに分けられている。ウェルビーイングに関する自己開示のきっかけとなり、その自己理解や他者理解を促進することを目的として作られたツール。カードに書かれる言葉は、中学校道徳教育での使用を通して、より使いやすいようにアレンジを続け随時更新している。最新版は https://socialwellbeing.ilab.ntt.co.jp/tool_measure_wellbeingcard.html と上記QRコードからダウンロードできる

「わたしたちのウェルビーイングカード」

筆者の所属するNTTの研究所では、自身や周囲の人々のウェルビー

イングの要因に意識を向け、それを言語化した対話をうながすツールとして「わたしたちのウェルビーイングカード」(右図)の研究に取り組んでいます。

このカードには、ウェルビーイン

渡邊淳司 わたなべじゅんじ

日本電信電話株式会社 首席特別研究員
人間の身体的コミュニケーションに関する研究を人間情報科学の視点から行なう。また、人と人との共感や信頼を醸成し、ウェルビーイングな社会を実現する方法論について探究している。主著に『情報を生み出す触覚の知性』(化学同人、2014、毎日出版文化賞〈自然科学部門〉受賞)、『わたしたちのウェルビーイングをつくりあうために』(共監修・編著、ピー・エヌ・エヌ、2020)等がある。



そのような意味で、ウェルビーイングの概念や、その要因について子供のころから学び、自身のウェルビーイングについて解像度高く把握する力を育むことは、自身の生をよい状態に保ち、困難に対してもしなやかに対応するための指針となることでしょう。



様々な他者と知恵やスキルを接合し解決に取り組むことが必須となります。そのときに必要となるのが、他者を尊重しつつ、対話・協働する力です。言い換えるならば、「自分や他者を『わたしたち』としてとらえ、自分のとともに他者のウェルビーイングを慮りながら生きていく力」です。

もちろん、ウェルビーイングは人それぞれ異なるものであるため、この力は、試行錯誤しつつ他者と関わり続ける中で、それぞれの人の価値観を理解し、尊重する思考・態度・行動の特性として育まれるということになります。

そして、このような考え方は道徳教育の目指すところと方向性を同じくします。「中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別の教科道徳編」によれば、道徳教育の目標は「自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した一人の人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うこと」とされています。

このように、一人の人間として自立しながら他者とともに生きる基盤となる道徳性とは、まさに社会の中で「わたしたち」としてウェルビーイングを実現していく上で必要不可欠な思考・態度・行動の特性だと言えるでしょう。

「わたしたち」として生きるための道徳性

個人のウェルビーイング向上を考えたときに、その人が一人で生きていくならば、時間やお金の許す限りそれを追求することができます。しかし現実の社会では、一人ではなく、他者と助け合い、限られた資源を分け合いながら生きています。さらに、私たちが生きる現代社会は、やり方が決まっていけない問題、因果が複雑に絡み合った問題で溢れています。特に、このような問題に対しては、多

ウェルビーイングと 道徳教育には親和性がある

「特別の教科 道徳」 での実践

次に「わたしたちのウェルビーイングカード」を使った「特別の教科 道徳」での実践について報告します。カードに書かれた要因は4つのカテ

ゴリーに分類されると述べましたが、実はこれらのカテゴリーは道徳の学習指導要領における4つの内容項目、「A..主として自分自身に関すること」「B..主として人との関わりに関すること」「C..主として集団や社会との関わりに関すること」「D..

主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」と重なっています。

もともと「わたしたちのウェルビーイングカード」は、ウェルビーイングの要因を介したコミュニケーションツールとして作られ、そのカ

しました。まず、先生が内容を読み聞かせ、生徒に「このときに主人公である手品師はどんな気持ちであったか？」といった手品師の気持ちに関する2つの発問をしました。これらの問いに生徒は口頭で答え、その後、2つの発問への答えを踏まえた上で、「あなた（生徒）が手品師の立場だったら、どんな行動をとったか？」と問いかけてきました。

テゴリーも主に心理学の観点から分類されたものでしたが、道徳教育における内容項目の分類とも親和性があったのでした。そこで、「わたしたちのウェルビーイングカード」を「特別の教科 道徳」の授業で使用する試みを行いました。

具体的には、NITの研究所と東京都立大学坂倉杏介研究室との共同研究の中で、2022年9月・10月に、このカードを世田谷区立尾山台中学校（福山隆彦 校長、生徒337人）の3年生「特別の教科 道徳」の授業で使用しました。事前に先生と打ち合わせを重ね、その使用法や意義に



(写真1)



(写真2)

まず、授業の冒頭では、生徒たちがカードに慣れるため「今、自分が大事に思っていること」をカード一覧から1枚選び、それを選んだ理由とともに3〜5人の班で共有しました。なお、この授業では紙のカードではなく、タブレット端末を使用しました。表示されたカード一覧から1枚を選択すると、そのカードを拡大したり、自由に配置したりできる仕組みとなっています（写真1・2）。

教材は「手品師」（江橋照雄・著書）を使用

先生のタイミングのよい問いかけに合わせて発表がなされました。

先生：Aさん（生徒）は「大劇場に行つて、あとで男の子に報告する」という行動をとるといふ。そのとき選んだカードは1枚目が「希望」。なぜ？
生徒Aさん：成功したあと、男の子に自分が成長したことを伝え、男の子に生きる勇気や自信を持つことを伝えたい。

先生：なるほど。次の1枚は「挑戦」ですね。
生徒Aさん：挑戦し続けることが大事だということを伝えたい。

別の生徒は、行動として、「男の子には置き手紙をして大劇場に行く」ということを選び、「達成」（手紙で男の子には事情を伝え、手品を見せるという約束はあとで果たす）と「思いやり」（何も言わずに大劇場に行く）と、男の子が落ち込んでしまうから、男の子を選ぶなど、同じ大劇場へ行くという行動をとったとしても、様々な視点のカードが選ばれました。

カードを使用することで生まれる利点

授業後、尾山台中学校の稲満美副校長をはじめとする先生方と、カードを道徳の授業で使うことについて

振り返りました。例えば、発問に対して、カードを使うことで、生徒に考えるきっかけが生まれ、カードを組み合わせて考えることができるという利点がありました。また、カードを複数枚選ぶということは、物事を一つの面だけから考えるのではなく、矛盾する心情も含めて複数の面から考えることを肯定しているとも言えます。

今回の実践では、道徳の授業で「わたしたちのウェルビーイングカード」を利用することが、生徒が自分や他者のウェルビーイングについて考えるきっかけとなり、さらには、主人公の立場に立って考える際の一つの手がかりになったと考えられます。実際、生徒からの感想には、「班の中でも意見が分かれた。いろいろな人の考え方を尊重していけたらいいな」と思いました」という意見もありました。

また、今回は各クラス一度の授業でしたが、今後、道徳教育全体の中で、概念自体を学ぶ機会とともに、今回のような機会をどのように取り入れていけばよいか、先生方と協働を継続できればと考えています。



「わたしたちのウェルビーイングカード」には、「生徒が発問に対して考えるきっかけを与える利点がある」という



(写真3)



あれから一年後、またクマの出現が予想される季節になり、町内会が公民館で開かれた。クマとの遭遇への不安を何とかしたいのだが、相手がクマでは決定的な方法があるわけではない。

昼下がりの通りを、パトカーがけたましくサイレンを鳴らして走った。十分ほどして、町の広報車が来た。「先ほど、田中町三丁目の川沿いでクマが目撃されました。外出は控えてください。」
幸いにも人に被害はなかったが、クマの出現で町中が大騒ぎになった。

町内会デビュー

「昔はこんなことはなかった。生活が変わったからかな。この間、テレビで人間の住むところが山と直接つながったのがクマやイノシシや鹿やらが出る原因だと言っていた。」
※以下の本文はQRコード、URLからダウンロードしてください。

指導事例

教材名：町内会デビュー

対象：1学年

主題名：「社会参画の意識」 内容項目：C-12 社会参画、公共の精神

ねらい：明が町内会デビューで得たものから、社会参画の意識をもち、よりよい社会の実現に努めようとする心情を養う。



パスワード nikkamember を入力してアクセスしてください
https://www.nihon-kyokasho.co.jp/nikka-memberpage/

指導過程

※（ ）内は ITC を活用した場合

	学習活動及び主な発問	指導の流れ	配分
導入	説明を聞く。 (タブレットPCで写真を見る)	挙手で発表させる。 (タブレットに入力させる) (どのようなキーワードが出たか示す)	5分
展開	教材を読む。	教師が音読する。	7分
	1 明はどんな気持ちで「僕はまだ中学生だよ。」と言ったと思いますか。	指名で発表させる。 ワークシートに書かせる。 (タブレットに入力させる)	8分
	2 町内会デビューをはたし、通学の途中でこちらから声をかけられた明は幸福感をどのように感じたと思いますか。 (タブレットでみんなの意見を見る)	班で意見交換させる。 (意見交換の後、全体ではどのようなキーワードが出ていたかを示す)	14分
	3 よりよい社会づくりのために、大切なことはどのようなことだと思いますか。	ワークシートに書かせる。 指名で発表させる。	8分
週末	自己評価表と感想を記入する。 (タブレットPCで映像を見る。)	自己評価表と感想を書かせる。 (地域活動やボランティア活動、地域の行事の映像を見る)	

「幸福」を「幸福感」に置き換えて考えさせる

文／菅 明男 道徳教育研究者

物質文明の社会では、精神的な幸福より富や物による満足が優先される風潮も見られます。なおかつ、生徒たちの幸福感は千差万別です。そこで、幸福という観点を「どのような幸福感を感じていたのか」という発問を糸口に、どのように道徳の授業で生かしていったらいいかを考えてみました。

幸福とは何かを 考える第一歩

先生方は、メーテルリンクの童話「青い鳥」や、森鷗外の小説「高瀬舟」を読まれたことはありませんか。「青い鳥」のチルチルとミチルの兄妹が青い鳥を探す旅、「高瀬舟」の「足るを知る」考え方、幸福というものを考える上で読んでみるのもいいでしょう。一方、物質文明の社会では、精神的な幸福より富や物による満足が優先される風潮も見られます。

している旅の途中ですから。きっと、道徳教育全体で幸福とはどのようなものか学んでいくことでしよう。

そこで、私は「幸福」の観点を、発問の中で、「幸福感」を問うことで生かすことにしました。

生徒に、その時の「幸福感」を考えさせたり、感じさせたりするのがいいのではないかと考えました。

では、文部科学省の教材を例に、発問を考えてみましょう。

「言葉の向こうに」(B9 相互理解、寛容)では「すごいこと発見しちゃった。」と言った時の「私」はどのような幸福感を感じていたと思

ますか」と発問します。

主人公が、コミュニケーションしているつもりだったけれど、一番大事なことを忘れていたことに気づく場面です。この発問を糸口に生徒の多様な意見を引き出し、その上で「異なるものの見方や考え方を受け止めながら、他の人とのコミュニケーションを図っていくためには、どのようなことが大切だと思いますか」という発問で、生徒それぞれに主題に迫らせます。

「私の銀蔵」(C11 公正、公平、社会正義)では、「その後、銀蔵は、手元に戻った金でほそほそと商いを始め、以前のような金貸しをすることはあ

りませんでしたとさ」とありますが、そのような生活をしている銀蔵にはどのような幸福感があったと思いますか」と発問します。いろいろなことがあった銀蔵に、今、どのような幸福感があるのか、生徒の様々な考えが出てくることでしょう。

いくつかの発問例を出しましたが、このようにすれば道徳的価値のものが幸福感を実感させて、ねらいに迫ることができると考えました。それでは、日本教科書1年の教材「町内会デビュー」で、社会参画をすることで得られる幸福感についても考えられる授業案を参考にしてください。

菅 明男 すげあきお

1959年生まれ。元東京都中学校教諭で、数多くの道徳教材を開発し、全国の小中学校で模範授業や講演などを行う。全日本中学道徳研究会事務局次長、東京都中学校道徳教育研究会研究部副部長、東京教師道徳助言者、文科省「心のノート」実践事例作成委員などを務めた。





産官学民との連携による戸田市SEEPプロジェクト。
AI(人工知能)では代替できない力やAIを使いこなす力「21世紀型スキル」「汎用的スキル」「非認知(社会情緒的)スキル」の育成を目指している
<https://www.city.toda.saitama.jp/soshiki/373/kyo-kaikaku.html>



新連載 第2回

ICT教育の旗手たちの提言

産官学との連携でICTの利活用推進



戸ヶ崎 勤 とがきつとむ

戸田市教育委員会教育長
小学校及び中学校の校長、戸田市や埼玉県の教育委員会を経て、2015年4月から現職。産官学民の知のリソースを活用したSEEPプロジェクトの浸透など攻めの教育行政を推進中。教育再生実行会議技術革新部会をはじめ、中教審第3期教育振興基本計画部会、同教員免許更新制小委員会、経産省未来の教室とEdTech研究会、全国的な学力調査に関する専門家会議、内閣府総合科学技術・イノベーション会議評価専門調査会教育・人材部会、文科省質の高い教師の確保のための教職の魅力向上に向けた環境のあり方等に関する調査研究会、同今後の教育課程、学習指導及び学習評価のあり方に関する有識者検討会の委員など歴任。

文／戸ヶ崎 勤 埼玉県戸田市教育長

埼玉県戸田市の戸ヶ崎勤教育長は、2015年の就任以来、産官学の知のリソースを活用したSEEPプロジェクト(Subject・EBPM・EdTech・PBL)の浸透など攻めの教育行政を推進してきました。ICTの教育への利活用は無敵大だとして、市内の学校でマスタアイテム化しています。その取り組みの一端を紹介いたします。

教育長着任以来

買っている教育改革の

4つの「コンセプト」

私は戸田市教育長に着任以来、4つのコンセプトを掲げてきました。
①AIでは代替できない能力とAIを活用する能力の育成、②産官学と連携した約70の様々なリソースの活用、③経験、勘、気合いという3Kから脱して、エビデンスを重視した教育への転換、④授業や生徒指導を科学する(暗黙知を形式知に)。

その上で、学校長らには「児童生徒の出でいく社会を知ろうとしない

ICT利活用を マスタアイテム化

ICT(情報通信技術)の教育への利活用は無敵大です。思いつくだけでも、「学びの多様化と深化(表現手段の拡充や同時編集・即時共有による学び合い)」「学習の基盤となる情報活用能力などの育成」「地理的要因や地域事情によらない教育の質の保障」「緊急時における教育活動の継続」「教師の働き方改革への効果」

「などがあげられます。これらの多くが戸田市の学校では実現しつつあります。

具体的には、2016年から将来的な端末一人一台配備を見越し、当面は文部科学省の基準である「3学級に1学級分」を目標にICT教育の実施を開始しました。当初は学校長に、「変わったとされる授業をぜひ見てみたい、という保護者や市民の声に答え、素人の目から見てもわかる授業改善は、ICT機器活用が最も効果的である」と強調しました。

ところが、当時は次のような否定的な意見が多かったのです。「ICT環境がなくても何ら困ることはない」「ICTを使う準備などに時間がかかって負担が増す」「機械のトラブルなどがあると授業が中断する」「チョークと黒板でよい」「授業ができない者にICTを使わせてもムダ」。

そこで、学校訪問できめ細かな指導や啓発、研修会、産官学との連携、人的支援などを実施し、その際、教師の「腹落ち」に時間をかけました。つまり、授業などで実際に使い、そのよさを実感してもらったのです。

次のステージでは、ICTの活用

がマストになる学びを推進することがキーとなり、戸田市ではプログラミング教育やPBL(課題解決型学習)の学びを重視しました。その際、教育委員会主導ではなく、教師と共に教材やカリキュラムを創ることに腐心しました。教師の魂のこもった教材だからこそ、各校の推進者を通して広がりがありました。

また、校長会や学校訪問などで次のようなことに共通理解を持てるようにしてきました。

- 実践のキーワードは「Just do it」「百聞百見は一験にしかず」
- 教師主導の「指導と管理」による「教具的利用」から学習者中心の「学びと愛用」による「文具的活用」へ
- 何のために使うかで価値が変わる。大切なのは、学びの質の向上
- Pedagogy First, Community Second, Technology Third(ICT は目的ではなく、手段である) は学習指導の肝
- プリント学習からの離脱とノート離れの見直しを
- 単なる若手ではなく指導力のある教師が活用してこそ校内に広がる
- 視野の外部や他者理解のため、アナログとデジタルの融合を(学校図

書館の活用)など

- 五感を刺激する学びも心がけなければ、学びに向かう力は育ちに「less is more」：クラウドなどを活用しつつ、限られた道具(知識)を巧みに使えるようにすること

GIGAスクール構想 第2フェーズに向けて

戸田市では、GIGAスクール構想の第2フェーズに向けて次のような取り組みを進めていく方針です。

- 教育データの利活用(学びのカルテ、生徒指導上のSOSの早期発見など)
- 戸田型オルタナティブ教育(多様なニーズに応じ、誰一人取り残されない教育)へのトライアル
- デジタル・シチズンシップ教育の充実やメディアリテラシーの挑戦
- 学校と家庭とのシームレスな学び(クラウド化の深化や反転学習)
- デジタル教科書やCBT(Computer Based Testing)が快適に機能するネットワーク環境の強化
- 高度で最先端の学びを実現できる「次世代のメディアルーム」
- 公立小・中学校でのSTEMM(Science・Technology・Engineering

「工学・ものづくり、Art＝芸術・リベラルアーツ、Mathematics＝数学)教育の基盤づくり

総理や文科大臣に直接伝えたこと

令和5年2月10日に岸田文雄内閣総理大臣、永岡桂子文部科学大臣などが、一人一台端末をマスタアイテムとした次世代の学びと学校における働き方改革に関して、戸田東小学校の授業を視察されました。その際、私から短時間プレゼンさせていただき、岸田総理に対して、特に次のことを強調しました。

- 早くから一人一台端末を整備してきた自治体は端末の更新時期を迎えており、その更新費の捻出が大きな課題となっている。
- 端末はもはや標準的な文房具だ。
- 成果や課題などを国で検証し、GIGAスクール構想セカンドステージに向けた検討をお願いしたい。
- 「GIGAスクール構想」が日本の教育のデジタル化元年として未来に記憶されてほしい。「4万5千円の文鎮」として放置されるなど「終わりの始まり」の年として語り継がれてはならない!

学級経営は信頼関係構築がスタート・ダッシュのコツ

文／堀川博基 埼玉県富士見市立西中学校校長

令和5年度もスタートを切り、新年度の幕開けに生徒と同じように緊張を憶えた先生方も少なくないと思います。それはベテランも、若手も同様でしょう。1年間の学級経営を、先生方の思い描くとおりに軌道に乗せるためには、スタート・ダッシュ、特に1学期の学級経営が大切となることは、みなさん熟知しているはずですが、今年度の学級経営の見通しを更に確実なものにするために、本稿が少しでも役立てば幸いです。

堀川博基 ほりかわひろき
 富士見市立西中学校校長
 1962年生まれ。現場経験豊富で、とくに若手の教師へのアドバイスも密に行っている。文科省の「中学校職場体験ガイド」作成に関わるなど、キャリア教育の創成期から実践・研究を重ね、キャリア教育、道徳に関する著書多数。



学級経営を確かなものにするための4つの信頼

学級経営の基本中の基本は、信頼関係です。結果はあとからついてきます。まずは次の4つの信頼関係づくりに取り組みましょう。

① **生徒との信頼（学級集団の絆を深める生徒理解）** 学級における信頼関係づくりの要です。特に年度当初、教師は生徒理解を積極的に深めていく必要があります。そしてもう一つ、生徒同士の相互理解も大切なポイントとなります。学級活動、短学活、休み時間に放課後等、様々な活動場において、生徒と教師、生徒同士がコミュニケーションを深める仕掛け

が重要です。
 ② **教職員との信頼（学級経営に作用する学校のチーム力）** 学級経営の基盤を支えるものが学校のチーム力（組織力）となります。たとえ担任の力量により、突出した学級があったとしても、3年というスパンの中学校生活を考えた場合、1人の教師の力量に頼った経営は、価値観の偏った薄いものとなってしまうことが散見されます。大切なのは、多様な生徒に対し、多様な価値観、視点で、多様な指導を展開できる学年集団、学校集団のチーム力（組織力）です。
 ③ **保護者・地域との信頼（保護者を巻き込む指導の展開）** 学級経営を安定的に進め、生徒が更なる自己肯定感を

持つて学校生活を送るためには、保護者との信頼関係は必要不可欠です。
 この3年間のコロナ禍もあり、学校側から積極的に保護者との信頼関係構築をアプローチする機会が減少したのも事実です。
 生徒が学校を好きになること、学校生活が充実すること、この2歩が満たされることにより、「生徒の学校生活の充実」→「保護者の安心」→「生徒の更なる意欲の向上」→「保護者の信頼」と、肯定的スパイラルが広がりを見せるので、生徒の中学校生活の充実と共に意図的に保護者との信頼関係を構築する創意工夫を心がけていきましょう。
 ④ **学校への信頼（授業や諸活動の充実と活性化）** 学校の根幹は授業（道徳、



獲得したい4つの信頼

1. 生徒理解を深める教師の創意工夫

- ① **生徒のポートフォリオ（個人情報等）の確認**
 名前・家庭環境・性格・人間関係・成績・進路希望・部活動・指導の履歴などを確認（指導要録・キャリア・パスポート・生徒指導個人カルテ・家庭調査票などを活用）
- ② **新たな出会いをチャンスに変える生徒理解**
主体的に自分を理解してもらう自己紹介：自己紹介ポスター・他者紹介による自己紹介・カウンセリングの機能による自己紹介エクササイズ・短学活での自己紹介・ICTを活用したプレゼンによる自己紹介など
生徒の心に迫る交流の展開：交流日記・連絡帳・やりとり帳の交換・年度当初の印象や感想をつづる作文・キャリア・パスポートによる新学級の感想など
- ③ **生徒同士の出会いを活かした意図的な集団指導**
出会いを活かしたガイダンス機能の充実：カウンセリング機能を活かした学級オープニングプログラム（人間関係づくり等）の実践・学級レク・学年レク（SGE等によるエクササイズ等）を活かしたこの見極めと集団づくり・小集団を活かした具体的活動の実践など
集団の適応をねらいとしたガイダンス的行事の展開：年度当初行事（校外学習、宿泊行事、スポーツ大会等）等の学級での意義の理解

2. 学校のチーム力を高める基本的な機能

- ① **各学級を支えることができる学年集団としての組織** 学年開きを大切に
- ② **「わかる授業」を展開するための教科部会の充実** 教科部会を機能させる
- ③ **風通しのよい職員室（今の教育危機を救う1つの手立て）** ベテランも若手も一機会を大切に支え合う

3. 保護者、地域の信頼を構築する学校のホスピタリティー

- ① **情報発信が保護者・地域との信頼関係確立のはじまり**
学年・学級通信の工夫（学校の様子を知ることが保護者の安心につながる）：学年だより（発行者のローテーション・保護者宛を意識・個人情報、写真等管理・メール配信・HPへの掲載・生徒のよいところを掲載・説諭のツールとしない・ニーズに合った情報・早めの情報提供など）
授業参観、学級懇談の活性化（保護者会での教師の人柄が信頼につながる）：保護者は子供の学ぶ姿が見たい（授業参観は必須）・保護者もアクティビティを（子供のよいところ紹介など）・ちょっとしたサプライズ（保護者会机上的名札を子供が作成、裏面には子供からのメッセージを記入させるなど）・生徒との個人面談、チャンス相談、三者面談等はもちろん有効、機会を見て実施
- ② **緊急対応、個別対応は初期対応がすべて** 管理職への報・連・相

4. 学校の信頼の基盤の構築

- ① **学校の根幹は授業（わかる授業）**
 現行の学習指導要領で示されている3つの観点「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体的に学習に取り組む態度」を意識した授業を、「主体的・対話的で深い学び」により実践 ICTの積極活用）
- ② **生き抜く力をはくむ、道徳、特別活動等の展開**
道徳による基本的価値観の育成（学級集団を成長させる上での価値観の涵養）：親切・思いやり・感謝・礼儀・友情・規則・集団生活・生命尊重・自律・希望と勇氣
特別活動による人間力の育成（人とかかわりによる生き抜く力の育成）：短学活・学級活動等によるコミュニケーション能力の育成
- ③ **安全・安心に立った学級経営**
安全な教室環境への配慮：机、椅子、床、ロッカー、窓、カーテン、時計、温度計、加湿器、エアコン、黒板、掲示板、教卓、教師用棚、清掃用具、清掃用具、個人PC用保管庫、視聴覚設備、ベランダ、配膳台、給食着、雑巾など
適正な生活環境の維持：掲示物の作成と掲示、共有スペースや物の管理、委員会・係の責務など

特別活動、総合も含む）です。学校が総合的に信頼される1番重要な要素は、生徒に対する「わかる授業」の他はありません。
 日頃からの教材研究は元より、年度初めのガイダンスや当初の授業はとて大切で、授業を核に、道徳、特別活動や学校行事等で教育活動全体にメリハリをつけ、生徒・保護者の学校への興味・関心や肯定感に更に高まり、学校への信頼は更に向上するのだと思います。

コロナ禍となり、学校の在り方も様々な景色が見えてきました。オンラインによる学習等、教室の様子を変えたかもしれない。しかしながら「学校だから」「学校でしか」できないものが見えてきたのも事実です。それは、仲間、集団、チームワーク、協働等で表現できる人と人がつながる力、人間関係形成能力だと思います。真の人間力は人と人との切磋琢磨でしかはくむことができないと私は思います。1学期のスタート・ダッシュのコツは「信頼関係構築力」に他なりません。



出会い、ふれあい、学びあう

「生き方」から学び、「生き方」を見つめ、「生き方」を創造する。
これが私たちの目指す「道徳」です。

先生方の授業をアシストする
メンバーページのアクセスが便利になりました。

メンバーページへのアクセス方法

日本教科書のメンバーページには、
右記のQRコードを読み込んでいただくか、



<https://www.nihon-kyokasho.co.jp/nikka-memberpage/>
を表示していただき、

パスワード nikkamember を入力してアクセスしてください。

また、弊社ホームページ <https://www.nihon-kyokasho.co.jp> からメンバーページに直接アクセスできるようになりました。「お知らせ」下の「日本教科書メンバーページ」をクリックしていただくと、「メンバーページにアクセス」のボタンが表示されますので、こちらをクリックしてください。次の画面でパスワード nikkamember を入力していただくとメンバーページに入れ、評価文例集、ワークシート、発問集をダウンロードできます。



日科 中学道徳通信 vol.9 令和5年6月1日発行

発行所 日本教科書株式会社
発行人 奈良 威
編集人 三星雅人

デザイン ランドリーグラフィックス
表紙イラスト 青木俊直

本資料は、一般社団法人日本教科書協会
「教科書発行者行動規範」に則り、作成されています。
本書の無断転載・複製を禁じます。



道徳専門の教科書会社
日本教科書株式会社

〒150-0011
東京都渋谷区東 1-11-3
電話：03-3518-6345 FAX：03-3219-0660
<http://nihon-kyokasho.co.jp>